

夫人), 次女汝女子(大東紡績脇本信氏夫人), 次男明胤(東京工業大学勤務)の命名はすべて片岡先生にお願いするほど, 彼は片岡先生を心服していた。昭和15年に関口鯉吉先生から旅順高等学校に赴任しないかとの話があったとき, 秋山君は非常に迷いつづけていた。そこで山内恭彦君と私とが秋山君に同道して片岡先生の御指示を仰ぐこととなった。私どもの説明を聞いた後, 片岡先生は即座に「秋山君行き給え」と決断され, 旅順へ赴任することになったのである。

秋山君は, 本年4月から大阪学院大学教授として新分野の開拓に大きな希望をもっておられた。その矢先に不幸にも病気で倒れられたのである。今や秋山君は積学院薫風天外居士(法名)として霊界に去られ, 私どもと幽明界を異にすることとなった。心から秋山君の霊よ安かれと祈る次第である。

秋山薫氏略歴

明治34年7月 東京都中央区日本橋浜町秋山正作氏(開業医)の長男として出生
大正8年3月 東京府立第一中学校卒業
大正11年3月 第一高等学校理科乙類卒業
大正15年3月 東京帝国大学理学部天文学科卒業

{自大正15年4月
至昭和4年4月 東京帝国大学大学院に在学
{自昭和4年5月
至昭和15年3月 東京帝国大学理学部助手
{自昭和5年9月
至昭和15年3月 法政大学予科教授
{自昭和10年9月
至昭和15年3月 東京高等師範学校講師
{自昭和12年4月
至昭和15年3月 陸地測量部修技所嘱託
{自昭和15年4月
至昭和16年9月 旅順高等学校教授
{自昭和16年9月
至昭和26年3月 日本医科大学予科教授
{自昭和18年2月
至昭和20年9月 水路部嘱託
{自昭和19年6月
至昭和21年3月 計数研究所嘱託
{自昭和24年4月
至昭和45年3月 法政大学教養学部教授
{自昭和25年4月
至昭和45年3月 青山学院大学講師
{自昭和27年4月
至昭和45年3月 中央大学講師
昭和37年2月 理学博士(東北大学)

学会だより

天文学会春季年会開かれる

5月12日から15日までの4日間, 東京都文京区の文京区民センターで, 今年度の春季年会が開かれた。講演数は131にもおよび, 熱のこもった研究発表の連続であった。2日目の講演終了後に天文学会総会があり, 天体発見賞等の贈呈も行なわれた。表彰を受けられたのは次の諸氏である。

天体発見賞 藤川 繁 久氏
多 胡 昭 彦氏
金 井 清 高氏
本 田 実氏

(なお本田実氏は2度にわたる発見が対象である)

功労賞 佐藤 安 男氏
小 坂 浩 三氏
大 堂 卓 氏
藤 川 繁 久氏

総会ではまた「運営検討委員会の答申について」の議題も提出された。3月22日に運営検討委員会から理事長に提出された「日本天文学会の組織と運営の改善に関する答申」を, 今後どのようにとり扱うかの問題である。

答申された定款改正案の問題点などがいろいろ出され, 活発な討論がかわされた。結局, 答申の理念をいか

して学会の改革を実現するために, 本年秋に定款改正を行なうことをめざすということが申合わされた。また理事会と運営検討委員会は必要な学会の実務面に関して話し合いをすることになった。(総会議事についてはいずれ理事会から月報を通じて発表になる)

国際シンポジウム“地球の回転運動”

(国際天文連合, 国際測地学連合共催)

地球回転運動について天文観測の結果を天文学・地球物理学その他の関連分野から総合的に検討し, 固体地球の解明と相俟って極運動および地球回転を精密に決定する方法を見出すことを目的として標記国際シンポジウムが, 次のとおり開かれる予定です。

日時 昭和46年5月9日(日)から5月15日(土)まで

場所 盛岡グランドホテル

国内組織委員会事務局 緯度観測所

経緯度研究会

上記シンポジウムに関連して, 昭和45年度第1回経緯度研究会は, 次のとおり開かれる予定です。

日時 6月29日(月), 30日(火), 7月1日(水)の3日間

場所 福島県二本松市岳温泉市営国民宿舎しゃくなげ荘

国際シンポジウムおよび経緯度研究会に関する照会